



Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第27号

目次

- 地域発国際環境情報教育プロジェクト開始
- 志摩市と相互友好協力協定を締結する
- 三重大学COEキックオフ・シンポジウム
- 工学部「中核人材育成事業」プロジェクトが経済産業省事業に採択
- 教育学部学生が青少年育成に協力

- 「東紀州講座」始まる
- 「愛・地球博」に「健康・食品アドバイザー ロボット」を出展
- 国際貢献フェスタinみえ2005開催！
- 工学部に「社会連携推進室」開設

お知らせ

- ・総務部からー
- ・地域連携推進室からー

地域発国際環境情報教育プロジェクト開始

三重大学と㈱イーラボ・エクスペリエンスが提案した「地域発の国際環境情報教育プロジェクト」の先進性が日本ヒューレットパカード㈱の社会貢献活動認定プログラムで認められ、教育学部及び附属小学校（校長：宮崎彰男教授・教育学部）に同社からPC57基と液晶プロジェクタ等が寄贈されました。これを記念して6月24日に、豊田学長、亀岡副学長、丹保教育学部長同席のもと、日本HP中部支社で寄贈式が執り行われました。同席した「パソコンの父」アラン・ケイ氏から、「子供達に地球と共存する大切さへの理解と国際交流を行う手立てを提供し、このプロジェクトが実践されることにより、戦争のような悲しい出来事が起きないように願う。」とのメッセージを頂きました。また、「愛・地球博」の「世界ミーム博覧会2005」では、招待された附属小学校児童5年生37名（担任：小坂尚照教諭）が同氏から、子供向けソフト開発言語「squeak」の体験指導を受けました。その後、豊田学長と関係者一同は三重県庁を訪れ、野呂昭彦知事に対しこのプロジェクトの報告を行ないました。野呂知事からは、「地域発のベンチャー企業と大学が一体となり、子供達に環境について考え、創造性を育む教育プログラムを、今後発展させて行って欲しい」との言葉が贈られました。



写真左から日本HP社 瓜谷輝之部長、アラン・ケイ氏、豊田学長

志摩市と相互友好協力協定を締結する



竹内 志摩市長 豊田学長

本学は、6月21日、志摩市との間で文化、教育、学術等の分野で相互友好協力協定を締結しました。地方自治体として8番目の協力協定になります。調印式は、三翠会館で豊田学長、竹内千尋志摩市長及び関係者の出席のもと行われました。この相互友好協力は、人文学部と旧阿児町との間での相互友好協力協定の内容を更に発展させたもので、今後、同市との友好関係は更に促進し、教育面や地域貢献等において連携・協力することが確認されました。

三重大学COEキックオフ・シンポジウム

6月24日「21世紀COEプログラム」採択を目指した研究プロジェクト「化石エネルギーに依存しない人間社会の構築」（代表：大原興太郎教授・生物資源学部 附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター長）のキックオフ・シンポジウムが本学農場で開催されました。循環型社会・環境問題の第一人者である内藤正明・京都大学名誉教授の基調講演「真の持続的社會とは」には研究者や地域住民・農業者など約80名の参加者があり、午後にはバイオマス共同事業研究会（代表：法貴誠・三重大学名誉教授）との共催により企業研究者等30名が参加し実際的な研究会が行われました。

工学部「中核人材育成事業」プロジェクトが経済産業省事業に採択

工学部（学部長：加藤征三教授）が、三重県・四日市市・地元企業と連携して経産省「産学連携製造中核人材育成事業」に提案した「多様な産業集積を活かしたイノベーション誘発型技術人材育成プロジェクト」（リーダー：野村由司彦教授・工学部）が先導的モデル事業として採択されました。今後3年間で、電気機械産業での中核的役割を担う高度専門技術者育成の体系的な教育システムを構築します。将来は他産業への展開、大学院生の創成技術教育への活用も視野に入れ、社会ニーズに応える新しい工学教育の実現に向け一歩を踏み出しました。

教育学部学生が青少年育成に協力

三重県生活部青少年育成室の事業に三重大学教育学部が協力することとなり、大学生を青少年育成の担い手「ユース・パートナー」に位置づけた「大学生による青少年健全育成活動支援事業」（学生教育活動支援委員会委員長：鶴原清志教授・教育学部）の説明と活動学生への委嘱状授与が5月23日、27日に本学で行われました。活動内容は非行防止活動、総合型地域スポーツクラブ、放課後児童クラブ、週末学習支援などで、登録された教育学部の学生29名の社会性を高めることが期待され、特に教員を目指す学生には貴重な経験となっていくことでしょう。

「東紀州講座」始まる



6月11日から高大連携「東紀州講座」（担当：石田正昭教授・生物資源学部）が始まりました。この講座は木本・尾鷲高校生徒に三重大学の研究内容を伝え、進路決定に役立てて貰おうという企画で、9月17日までの土曜日、各3時間の講義を8回開催します。今年のテーマは「紀伊半島のナチュラール・サイエンス」で、海、地震、森林、イルカ、クジラ、ヤシ、ミカン、地域医療など東紀州地域に関係の深い自然や社会を素材に、理系で学ぶおもしろさを伝える内容となっています。受講料は3千円で、全8回受講予定の生徒は9名で、各日、30名を越す高校生が出席し、高校側からすでに感謝のメッセージが届いています。

「愛・地球博」に「健康・食品アドバイザーロボット」を出展

生物資源学部生物情報工学研究室(代表：橋本篤教授)とNECシステムテクノロジー㈱は、赤外線センサーを用いて食品の成分や食品の種類を判定し、さらにその情報に基づいて健康や食品についてのアドバイスを行うことができるパートナーロボット「健康・食品アドバイザーロボット」の開発に成功しました。このロボットは、両者がNEDOの「21世紀ロボットチャレンジプログラム次世代ロボット実用化プロジェクト（プロトタイプ開発支援事業）」に提案、採択された研究の成果であり、6月9日～19日に「愛・地球博」で開催された「プロトタイプロボット展」に出展され、CNNやNHKなどをはじめ多くのマスコミからも注目されました。



国際貢献フェスタinみえ2005開催！



三重県とフェスタ実行委員会（会長：肥田幹子・NGOみえ）主催の国際貢献フェスタinみえ2005が6月11日-12日にアスト津3階の市民交流センターを中心に開かれました。国際貢献や国際協力をテーマに、国際しゃべり場、ピーストークマラソン、ワークショップ、エッセイコンテスト等数々の催しが行われ、2日間で1000人を越す市民が参加しました。本学からは、実行委に代表を送ったほか、学生や卒業生が企画運営に加わっています。（<http://www.pref.mie.jp/kokusai/hp>）

工学部に「社会連携推進室」開設

工学部では、教育・研究と共に「社会連携」を強化推進すべき戦略基盤としています。法人化後、産業集積地域である四日市に向き、産官学の連携をして地元ニーズに対応した知的産業シーズの提供に努めています。進行中の大型プロジェクト等に加え、四日市市からの人的支援、NEDOや中核人材事業の提案採択、企業との包括協定締結、多くの共同研究開拓、等々への実効的かつ迅速に対処できるよう、6月1日に工学部社会連携推進室を開設しました。今後、リサーチフェローやコーディネータも強化し、一層の社会連携推進をめざします。



お知らせ

総務部から「学長サロン」へようこそ

学長と教職員とのコミュニケーションを緊密にするため、フランクに話し合える場として「学長サロン」を開催します。ふるってご参加ください。日時：7月6日（水）17:30-19:00 場所：パセオ（生協2階） 費用：飲物実費

地域連携推進室から「21世紀ゼミナール」

6月27日（第1回目）より市民向け標記ゼミナールが（財）北勢地域地場産業振興センター（じばさん三重）に於いて開催されています。（詳しくは、<http://www.crc.mie-u.ac.jp/liaison/index1.html>もしくは、地域連携推進室：059-231-9656まで）

第2回目 8月25日（木）18:30

講師：石阪督規人文学部助教授 テーマ：「まちづくりと市民参画～21世紀型まちづくりの可能性～」

第3回目 10月21日（金）18:30

講師：中西智子教育学部教授 テーマ：「少子化への対応～子育て支援～」

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治（vpre-info@mie-u.ac.jp）または井上真理子（mariko-i@ab.mie-u.ac.jp）まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾